



センター通信

〒123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

「令和」を迎えて

5月1日より元号が令和と変わりました。今までの様な陛下の崩御により年号が変わるのでは無かったからか、とても新鮮な気持ちで迎えられた方も多かったと思います。4月30日に、「今日は、ある意味大晦日だから夕食はお蕎麦にしよう」と職員が言うのを聞いて、成程そういう考えもあったと不思議に納得しました。

平成の30年間は、日本では全く戦争がなく平和を享受できたのはとても、有り難かったと戦争を知らない世代ながらも、多くの方々の努力に感謝もしました。子どもを取り巻く環境には、戦災孤児という言葉は無くなり、天災・人災で親を亡くした子どもはいますが、少数です。戦災孤児3万人から被虐待児13万人の時代となり、子ども達を取り巻く環境は、平成に入ってから昭和の時代よりも厳しくなった気がします。親がいながら親元で過ごせない子ども達は、自分の存在価値が認められず、自傷に走る子どもも多いです。又、大人不信の子どもが多く、入所してくる子どもの大半がそれに当たります。職員は、まずは子ども達と信頼関係を結べるようにと努め、彼らに寄り添って自分たちが生きることの大切さを教えていきます。最長でも6年間、短い場合には1年足らずで退所していく子ども達が社会に出ても律して行かれるようにと職員の日々の努力には、頭が下がります。

児童養護施設では高校を卒業できるようにと勉強だけでなく、日々の生活に必要な掃除・洗濯を始めとした基本的な生活習慣を寝食を共にすることで支え、導いています。自立援助ホームでは、仕事を一緒に探し、上司に挨拶に行き、仕事が続けて行かれるようにとお弁当を作ったり、職場での悩みを聞いたり、助言もして支えています。この頃では、自立援助ホームの子ども達も上級学校に通う場合には、卒業するまで施設にて生活ができるようになり、仕事と学業が両立できるようにとサポートをしています。

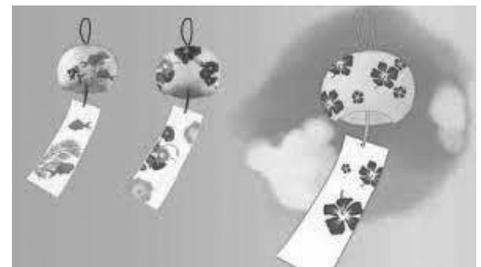
次年度より、文科省が上級学校に進む子ども達に、学費免除や生活費の無償給付を始めます。センターの子ども達が全てその対象になれるかは判りませんが、今までは奨学金という借金を背負った子ども達にも、きちんと学業に励めるよう道を開いた有り難い新規事業です。以

前は大学を卒業すれば就職ができるという時代でしたが、今はそんなに簡単ではなく、それよりも専門学校に進んで資格等を取って就職への道を模索しています。創始者長谷場が自動車訓練校を運営し、子ども達が高校に通いながら、資格を取って社会に出て行かれるようにしていた頃を思うと隔世の感がありますが、社会に出て自分も律して行かれるような手助けをしていくという基本の精神は変わっていないと思っています。

現在では、女性も結婚をしてからも職を続ける職員が増えてきています。最近も、清周寮職員で3人目の子どもを妊娠中も働き、子ども達が、日々お腹が大きくなり、胎動も感じられるようになっていくのを目の当たりにして、自分自身の将来の姿を感じていました。きっと、職場に産まれた子どもを連れてきても皆で、自分の子どものように可愛がることでしょう。勿論、宿直業務はできないので、周囲の職員がカバーしていく必要はあり、それなりに大変ですが、得るものも多いのではと期待しています。と同時に男性職員も育児休暇が取れるような環境に持って行かれるようにしたいと願っています。宿直業務が基本のセンターと言う仕事場で、仕事を続けていくのは職員自身は勿論、法人としても大変な事ですが、お互いに良き方向に進められるように努力を続けたいと思います。

令和という時代が始まりました。私たちがそれぞれの義務と責任を果たし、当法人の「良い子を育て次世代の担い手を育む」と言う理念が浸透して行かれるよう、今後も職員と共に力を合わせて励みたいと思っています。

縁あってお預かりした子ども達は勿論、職員も共に良き経験を積み重ねていか



れる時代にしたいと思います。何かと至らぬ私たちが、今後ともよろしくお願い致します。

理事長 荒船旦子

野口神父の研修を終えて

昨年の12月4日、法人内教養研修として日本カトリック児童施設協会会長を務めていらっしゃる野口神父をお招きし、研修を行いました。この頃、創始者の長谷場を映像であつたり、書物の中でしか知らない職員が多数を占めるようになってきました。私自身は長谷場が清周寮長を務めていた時に、指導員として直接指導を受ける機会に恵まれた上、その後も多々接する機会がありました。

法人の職員として勤める以上、長谷場の人間性、思い、理念などを知り、理解する必要があります。1人の人間としての長谷場自身を職員に知ってもらうため、長谷場が帰依し、心の支えとしたカトリックの教え、そして昔の長谷場を知っている野口神父に講義をお願いしました。

職員の殆どがカトリック信者ではありませんし、また全職員が講義を受けた訳ではありませんので、1年に1回はこのような研修を続けていき、浸透させてい



きたいと思っています。将来的には、長谷場の心の拠り所、思い、理念を職員が全員理解し、青少年福祉センターとして事業所が違っても、根本的な部分で児童に対しては、一致した支援が行えるようにしたいと思います。

法人人材育成委員長 石丸正史

入社式・新人職員研修

4月1日、長谷場新宿寮にて入社式及び研修が行われました。入社式の理事長あいさつでは、「親は一人、児童指導員はチームで親となる」「センターをご支援くださる後援者に心から感謝する」といった当法人の職員としての心構えが示されました。職員一同、気が引き締まる思いで聞きました。入社式後は、ビジネスマナー講義が行われ、敬語の使い方、名刺交換のやり方、電話対応など社会人として必要なビジネスマナーを、DVDを見ながら確認しました。

午後の研修では、「夢・目標・チームワーク」というスローガンが掲げられ、新人職員の目指すべき職員像が示されました。3人の先輩職員の体験談を聞くコーナーは、新人職員にとって大変貴重なものとなりました。先輩職員が、実際に1年目に苦労したところ、それをどのように克服し、現在に活かしているのかという話をすると、新人職員は少しでも先輩の体験談を自分に取り入れようと、耳を傾けていました。

研修ではグループディスカッションも行われまし

た。最初は遠慮がちに話す新人職員達も、討論を重ねるうちに周り打ち明け、自分の意見をしっかりと発表していました。研修の最後には、全員の前で、新入職員が一人ずつ自分の目指す職員像を発表しました。

今後、新人職員達は児童養護施設、自立援助ホームに分かれて勤務します。しかし、次の研修ではまた一同顔を合わせ、それぞれの施設での経験を持ち寄って、語り合いながら、より良い職員を目指します。



近 況 報 告

児童養護施設 暁星学園のようす (定員 男女 30名)

今年度は8人の新任職員を迎え、雰囲気もにぎやかになりました。新任職員からのコメントを掲載します。

- ・子どもにも職員にも自分にも優しくいられる職員になりたいです。(金山)
- ・当たり前のことを当たり前にし、子どもと一緒に成長していける職員になります。(帯川)
- ・「ありがとう」と「ごめんなさい」をきちんと伝えられる職員になりたいです。(片根)
- ・感謝の気持ちを大切に、常に目標を持ち、向かっていける職員になりたいです。(柳沢)
- ・全ての人に対して、誠実、謙虚、素直に接する事が出来る職員になります。(坂本)
- ・気の利く職員を目指して、日々職務を全うします。(佐藤)
- ・常に向上心を持って働いていきます!(廣田)
- ・子ども達に目指される職員になりたいです。(榊)

今年も暁星学園は躍進していきます!!



児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 男女 20名)

あけの星学園は、敷地の裏山に竹が生えているので、ゴールデンウィーク過ぎまで、毎日のように子ども達とたけのこ掘りをしています。採れたたけのこは、早速いろいろな料理に姿を変えて、食卓を彩っております。

大型連休となった今年のゴールデンウィークは、男子は那須、女子は日光へ恒例の宿泊行事に行ってきました。生憎の天気となりましたが、日常を離れて大いに楽しむことができました。他にも、クルージング行事にご招待いただいて、贅沢な時間を過ごしたり、園内で子どもの日の祭事をしたり、季節を感じる行事をいろいろと計画しています。

今年度は高校卒業を控えている児童が6名おり、自

立を間近に控えて、進路を確定させる重要な時期にきています。大学進学を目指すNさんは、志望校を決定するため、毎日勉強に励んでいます。子ども達ひとりひとりが希望する進路に向っていけるよう、職員一丸となって支援していきたいと思ひます。



自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす (定員 男子 15名)

平成から令和へ新時代への幕が開け、長谷場新宿寮も新しい年度を寮生や新しい職員と共に迎えました。今年度も寮生・職員が一丸となって仕事と生活に向き合い、大きく成長していけるよう取り組んでいます。時には悩むことがあっても、職員との対話を大切にし、明日への英気を養っています。

多感な時期の男児たちが就労し、自立するのは簡単なことではありませんが、行事や余暇の時間を上手く活用し、それぞれの目標に向かって過ごしています。

今年は、映画「翔んで埼玉」が大ヒットしましたが、その人気にあやかり、5月のゴールデンウィーク行事では、埼玉県でのスポーツ行事、千葉県での観光行事を新たな取り組みとして実施しました。例年通り、富士急ハイランド行事等も開催し、賑やかな寮生たちの姿が印象的でした。

日に日に一段と暑さを増していますが、乗り越えてこそ新宿寮生!

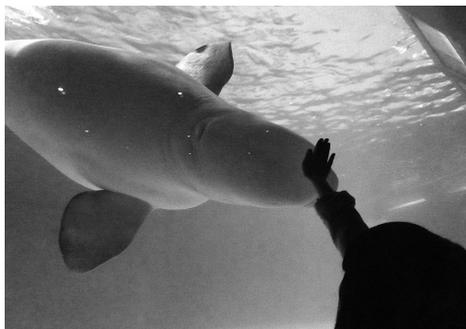
寮生・職員一同、令和も頑張ります! 支援を止めるな!(昨年流行語より)



自立援助ホーム 清周寮のようす (定員 女子15名)

ここ最近の清周寮では、「学校に行きたい」「高校の卒業資格を取りたい」という希望を持つ児童が増えています。この春にも新たに1名の児童が通信制高校に入学し、他に夜間専門学校生が1名、定時制高校生が2名、高卒認定試験受験予定が1名と合計5名が勉学に励んでおります。一度は進学を諦めた子ども達が、再度スタートを切り、学びなおそうとする姿はこちらも勇気づけられるものです。一方で、仕事を生活の軸に選び直し、自分の夢に向けて様々なチャレンジをしている児童も多くいます。児童がそれぞれに合った時期にそれぞれに合った選択をし、自信を持って自立していくことが私達職員の願いです。

そのような様々な児童が一緒になり、3月には鴨川シーワールドといちご狩り行事に行きました。生憎、雨



の降りしきる寒い日ではありましたが、児童はそれを吹き飛ばす勢いでイルカのショーに臨んでいま

した。また、いちごや海鮮丼をお腹いっぱい食べ、大満足の行事となりました。今後も児童が笑顔で居られるような行事を企画したいと思います。

自立援助ホーム おうぎ寮のようす (定員 男女6名)

おうぎ寮では、4月から新しい職員が入職し、日々頑張っています。その頑張っている姿から他の職員も新鮮な思いを感じ、初心に帰ってよりよい支援について改めて考えさせられています。

そんな新しい体制の中ではありましたが、8回目となるおうぎ寮祭を5月11日に無事開催する事が出来ました。それまでの準備の甲斐があつてか天候もさわやかに晴れ渡った中で、バーベキュー、流し素麺などを行なうことが出来、ささやかながら子ども達に手料理も振舞うことが出来ました。日ごろは親として、また社会人として、頑張っている子ども達も懐かしい職員や生活を共にした仲間と語らい過ごす中で、慌しい日常を忘れることができる機会となったのではないかと思います。

ます。開催に当たりましては多くの企業の方のご理解とご協力を戴くことができました。この場をお借りして御礼申し上げますと共に、これからも職員一同力を合わせて子ども達と共にありたいと思います。



山中湖林間寮のようす

クリスト・ロア会と協働で始めた事業も3年目を迎え、昨年の利用者数は、2,000名余と倍近くなりました。各施設の子も達ばかりでなく、職員の研修やガールスカウトなどの団体も利用して下さっています。又、再開を機に、以前利用されていた方々もリピーターとして親子や友人方といらしています。今夏は始めて障がい者のグループが利用される予定で、車いすの通行が楽にできるようにと敷地内の道の整備にも励んでいます。

春から秋にかけては、魚釣りや山登り等周辺での遊びも盛んです。それに加えて秋の山中湖は、紅葉がきれいで、栗拾いや都会ではできないたき火を利用した焼き芋も楽しめます。又、冬には敷地内でそり滑りもできますし、敷地内のグラウンドにて、夜空を眺めると星

が降るように見える夜もあり、四季それぞれに楽しめます。今後多くの方にいらして頂けるように工夫を重ねていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。



第11回青少年福祉センター成人式開催

去る平成31年1月12日に、JR日暮里駅前のホテル・ラングウッドで、新成人に所縁のある方、後援者の方々に出席頂き、成人式を開催しました。事業所の担当職員は、一人でも多く参加して欲しいという想いで日々の業務の合間に準備を進めて参りました。

今回は、男性25名、女性21名の総勢46名が新成人を迎えることとなっておりました。全員が会場に入れるのかと、不安がありました。式が近づくにつれて、仕事が忙しく休みが取れない等の理由で、欠席者が増え始め、式の当日にも欠席せざるを得ない新成人もおりました。最終的には、男性11名、女性6名の総勢17名が出席してくれました。式の前には、立ち姿の写真撮影を行い、後日お渡ししました。

毎年そうですが、普段見ることができない、新成人のスーツ姿や振袖姿には感慨深いものがあります。新成人の言葉には、成長の跡を感じ取られ、これまで大人や社



会から虐げられた子ども達が、社会で様々な苦難にぶつかりながらも鋭意努力し堂々とした姿で成人式に集まってくれてくれたことを、傍で見守ってきた者として、とても誇らしく思いました。大人の第一歩を踏み出した彼らの人生が、より輝かしいものとなり「次世代の担い手」として、社会で活躍してくれることを心より願います。

成人式担当事業所長 榎藤聖一

成人式にご協賛くださいました企業・団体の方々に感謝申し上げます。

ACHA project

一般社団法人 いけばなインターナショナル東京支部

国際ソロプチミスト東京 - 広尾

国際ソロプチミスト東京 - 弥生

東京西北ロータリークラブ

株式会社 エキップ

岡本 株式会社

株式会社 カタログハウス

株式会社 カネボウ化粧品

京王プラザホテル

京都きもの友禅 株式会社

株式会社 コスモス

株式会社 シービージャパン

ゼブラ 株式会社

株式会社 タカキュー

株式会社 似鳥工務店

マドラス 株式会社

株式会社 丸昌

株式会社 守屋

株式会社 吉田

株式会社 ロフト

ホテル ラングウッド

敬称略・順不同

ラジオ深夜便に出演して

2月19日、NHKの「ラジオ深夜便」に理事長の荒船が出演致しました。「子供たちの命と未来を守る」と題した40分間の放送では、キャスターの石澤典夫氏をお相手に、当法人の成り立ちに始まり、児童虐待など現代の子供たちを取り巻く現状、センターの創始者たる長谷場の理念の継承と課題、「光の人」(今井彰氏著)についてなど、多くのことに話が及びました。午前4時放送という時間帯ながら多くのリスナーが聴かれていることは想像に難くありません。放送後は、「ラジオを聴い

て、センターをはじめとする児童養護の取り組みを初めて知り、支援を行いたい」等の温かいお言葉をたくさんの皆様からいただきました。中には、ラジオを聴かれたことをきっかけに、ご自身で栽培された農作物を送ってくださる方もいらっしゃいます。このラジオ出演を機に、新しい支援の輪が広がることに感謝するとともに、長きに渡り変わらず支援をしてくださった皆様に改めて深くお礼申し上げます。

平成 30 年度 決算書（資金収支計算書一部抜粋）

（単位：円）

経常収支	勘定科目/事業所	法人合計	法人本部	社会福祉事業					公益事業
				長谷場新宿寮	清周寮	おうぎ寮	暁星学園	あけの星学園	山中湖林間寮
経常 収入	児童福祉事業収入	549,548,965	0	56,859,024	60,681,608	29,289,156	230,079,877	172,639,300	0
	寄附金収入	20,497,439	13,458,120	2,728,000	727,000	1,048,500	447,000	2,088,819	0
	雑収入(受取利息含む)	15,396,917	6,052,184	1,466,304	1,429,976	480,922	3,138,346	2,829,182	3
	収入計	585,443,321	19,510,304	61,053,328	62,838,584	30,818,578	233,665,223	177,557,301	3
経常 支出	人件費支出	405,662,433	19,450,469	43,671,759	45,307,514	28,059,312	158,534,110	110,639,269	0
	事務費支出	65,338,990	14,397,538	4,880,631	3,698,186	1,676,007	21,486,382	17,999,382	1,200,864
	事業費支出	63,936,754	0	6,514,141	4,894,987	2,295,865	27,948,416	22,283,345	0
	雑支出(支払利息含む)	7,966,172	619,544	1,056,815	1,049,723	326,865	2,603,471	2,309,754	0
	支出計	542,904,349	34,467,551	56,123,346	54,950,410	32,358,049	210,572,379	153,231,750	1,200,864
	経常活動資金収支差額	42,538,972	-14,957,247	4,929,982	7,888,174	-1,539,471	23,092,844	24,325,551	-1,200,861
	※22,000円内部取引消去								

なのの会基金授与

永年、青少年福祉センターをご支援くださっているなのの会様からの寄付を基に、センターに在籍又は退所した利用者で、大学や専門学校等へ進学することが決定した者に対し、“進学支度一時金”として一人50,000円、更に卒業が決定した者に対し、“卒業お祝い金”として一人50,000円を支給しています。学業費用面での支援を図ることを目的とする基金です。今年度は退所利用者1名への支給が決定し、3月27日に授与式が行われました。

当該利用者は、おうぎ寮で約1年半生活をしており、在寮中はアルバイトに勤んでおりました。日々の生活の中で余裕が生まれると将来について考えるようになりました。自身の社会での経験を通じて感じた社会の不合理と不平等な現実に対して疑問を抱くと共に、安定した仕事を指す思いもあり、自身の専門性と社会への思いを活かすことができると考えて、公務員への就職を目標に決めました。

高校を中退していた為、日々のアルバイトの傍ら学習ボランティアの方のご協力を得て、高等学校卒業程度認定試験を受験し大学受験の準備を進めておりましたが、同時に希望の学校を見学に行くなど本人の努力もあって、無事夜間の大学に合格する事ができました。その後、進学を機に家庭で生活することとなりましたが、

退寮後も変わることなくアルバイトと日々の勉学に励んでおりました。本人は真面目で言葉も多くは語りませんが、奨学金の手続や何かの節目に職員と接する機会には、忙しいながらも自身の定めた目標に向かって努力している様子が伺えました。大学三年生からは公務員試験の勉強にも取り組み、この度無事大学を卒業し、公務員として就職する事ができました。

なのの会様をはじめ、多くの後援者の皆様のご支援があつてこそこの学業の成就、目標の実現であると改めて感じる次第です。皆様の温かいご支援に対する感謝の気持ちを忘れることなく、今後も夢を持ち、目標に向かって進んでいく子ども達の支援に、力を尽くしてまいります。



編集後記

施設を見渡しますと、卒園生が時々遊びに来る風景に出会います。卒園生が、入所児童を前にして語る社会に出て仕事をすることの大変さとやりがい。それを、将来の自分と重ね合わせて、まぶしい眼で見つめる入所児童。子ども達は社会の中で自立する先輩達の大きな背中を目標にしながら、施設で日々の生活を送っております。そのような子ども達の自立を職員が一丸となって支援していけるよう、努力して参ります。(瀬尾)